

C H A P T E R



小学校  
実践ハンドブック

## 【目次】

- 1 「CAN-DOリストの形での学習到達目標」作成の手引き
- 2 AOMORI CAN-DOリスト（小学校5・6年生）
- 3 AOMORI CAN-DOリスト（小学校3・4年生）
- 4 CAN-DOリスト活用例
- 5 実践事例
  - (1) 聞くこと
  - (2) 読むこと
  - (3) 話すこと（やり取り）
  - (4) 話すこと（発表）
  - (5) 書くこと
- 6 参考文献

## 【本実践ハンドブックについて】

平成29年3月に告示された小学校学習指導要領が全面実施されてから4年が経ちます。本県の先生方におかれましては、小学校中学年「外国語活動」、高学年「外国語科」の指導の充実を目指し、日々の授業実践及び授業改善に取り組まれていることと思います。

このたび、平成31年3月発行の「小学校外国語活動・外国語科 実践ハンドブック」を見直し、単元目標やパフォーマンス課題、単元の評価規準等を示した上で、指導過程例の修正を加えました。小学校中学年「外国語活動」における実践事例については、「文部科学省 Let's Try! 1」「文部科学省 Let's Try! 2」の教材をもとに見直し・修正しておりますが、高学年「外国語科」の実践事例は、各教科書会社で出版されている教科書で扱われている題材をもとに見直し・修正しております。各学校の児童の実態に合わせて御活用いただければと思います。

最後に、本実践ハンドブックが、本県の子どもたちの外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による各技能の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地または基礎となる資質・能力の育成につながる一助となれば幸いです。

## 「CAN-DO リストの形での学習到達目標」作成の手引き

### 1 CAN-DO リストの形での学習到達目標とは？

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域ごとに、卒業時及び各学年修了時までには児童生徒に身に付けさせる能力を、学習指導要領の各領域の目標に基づき、「～することができる」の形で一覧表にしたものです。ここではその一覧表を「CAN-DO リスト」と表すことにします。

### 2 なぜ CAN-DO リストの作成が求められているのか？

「外国語(英語)」を用いて何ができるようになるか」というコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指した指導と評価をするためです。

「外国語(英語)を使って何ができるようになるか」という観点から、CAN-DO リストを作成します。教科書・教材、児童生徒の学習状況、授業時数等を踏まえながら、できるだけ分かりやすく設定し、その目標に到達するための指導方法を工夫・改善することが期待されています。

### 3 CAN-DO リストを作成することの効果とは？

教員と児童生徒がゴールを共有し、学習への見通しをもち、学習を評価する(振り返る)ことで主体的な学びを可能にします。

- (1) 「外国語(英語)を使って何ができるようになるのか」を明らかにすることができる。
- (2) 外国語(英語)の学習の「ゴール」が明確になる。
- (3) 文字、語彙、文構造等の知識を活用してコミュニケーションを図ることができる。
- (4) 教員間で共通理解を図りながら指導に当たることができる。
- (5) パフォーマンステストなどを活用することによって「外国語(英語)を用いて何ができるか」という観点から評価することができる。

### 4 CAN-DO リストの役割とは？

「ゴールを示すこと」と「そのゴールへの到達度を確認」する役割が求められます。

- (1) 「何ができる」ようになるかを知る—到達目標として
- (2) 「どれくらいできる」ようになるかを知る—自分の学びの位置を確認する判断基準として
- (3) 「できるようになる」ために自ら学習する—自律的な学習者を育てるため

### 5 CAN-DO リストの設定手順とその使い方は？

AOMORI CAN-DO リストを参考に自校版 CAN-DO リストを作成し、活用しましょう。

- (1) CAN-DO リストの目的を中学校区内の外国語(英語)担当教員等で共有します。
- (2) 児童生徒の学習の状況等を踏まえ、卒業時の学習到達目標を「～することができる」という形で、五つの領域ごとに記述します。この時、具体的な学習到達目標となるよう、数値目標を設定してもよいでしょう。
- (3) 卒業時の学習到達目標から、学年ごとの目標を「～することができる」という形で、五つの領域ごとに設定します。その上で各単元における目標を「～することができる」という形で記述し、主な学習活動、評価方法を計画します。
- (4) ペーパーテストに加え、面接、スピーチ、エッセーなどのパフォーマンス評価を活用します。
- (5) 各単元や学期、学年といった単位で学習到達目標の達成状況を把握し、必要に応じて指導方法を改善します。
- (6) 卒業時及び学年ごとの目標の適切さを検討し、必要に応じて見直します。

AOMORI CAN-DO リストや自校版 CAN-DO リストを活用し、児童生徒が自分の学びを振り返る、児童生徒用 CAN-DO リストを作成することもできます。



AOMORI CAN-DO リスト (小学校3・4年生)

4 学年修了時の学習到達目標

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。  
 (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝える力の素地を身に付けている。  
 (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

5 つの領域ごとの 4 学年修了時の学習到達目標

ア	ゆっくりはっきりはつきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ろうとする。		基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。	身の回りの物について、人前で実物を見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	ア
イ	ゆっくりはつきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味を分かろうとする。		自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。	自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	イ
ウ	文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかを分かろうとする。		サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりしようとする。	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	ウ

学年	聞くこと	読むこと	話すこと〔やり取り〕	話すこと〔発表〕	書くこと	学年
小 4	<p>ア ゆっくりはつきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句(好きな色や食べ物、着ている服、持ち物など)を聞き取ろうとする。</p> <p>イ ゆっくりはつきりと話された際に、イラストや写真などを手掛かりとして、身近で簡単な事柄(よく知っている人や物など)に関する基本的な表現の意味を分かろうとする。</p> <p>ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかを分かろうとする。(大文字・小文字)</p>	<p>ア 相手に配慮しながら、基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。</p> <p>イ 相手に配慮した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、2～3語の文で答えたりして会話を続けようとする。</p>	<p>ア 身の回りの物(文房具、果物、飲み物など)について、人前で実物、イラスト、写真などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>イ 自分自身(好きな場所、学校・教室など)について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄(曜日や時刻、場所など)について、人前でカレンダーなどの具体物を見せながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p>	<p>ア 動物、身体の一部、状態、気持ちなどについて、人前でイラスト、写真などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>イ 自分や友達の名前の頭文字について、人前でカードを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前でイラストや写真などを見せながら、自分の考えや気持ちを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p>		小 4
小 3	<p>ア 繰り返しはつきりはつきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句(好きな色や食べ物、着ている服、持ち物など)を聞き取ろうとする。</p> <p>イ 繰り返しはつきりと話された際に、話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを手掛かりとして、身近で簡単な事柄(よく知っている人や物など)に関する基本的な表現の意味を分かろうとする。</p> <p>ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかを分かろうとする。(大文字)</p>	<p>ア 相手に伝わるように工夫した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。</p> <p>イ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、2～3語の文で答えたりしようとする。</p>	<p>ア 表情やジェスチャーを付けて相手に伝わるように工夫しながら、基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。</p> <p>イ 相手に伝わるように工夫した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、2～3語の文で答えたりしようとする。</p>	<p>ア 動物、身体の一部、状態、気持ちなどについて、人前でイラスト、写真などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>イ 自分や友達の名前の頭文字について、人前でカードを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前でイラストや写真などを見せながら、自分の考えや気持ちを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p>		小 3
評価方法	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード		評価方法

☺ (自信あり!) から -- (もっと練習したい!) まで、色を塗るなどして、それぞれの目標をどれくらい達成できたか確認しよう。

## CAN-DO リスト活用例 ～單元ごとの CAN-DO リストを作成する場合～

- 1 教科書の単元を通して育てたい資質・能力を、AOMORI CAN-DO リストから選択する。

例) 教科書内容 → Blue Sky2 Unit4 My Future Dream

対応する CAN-DO リスト → 2 学年 話すこと [発表] イ

※教科書の単元でスピーチを扱っている場合、「話すこと [発表]」の力を育てることに適していると判断できる。

- 2 CAN-DO リストの下線部を教科書の題材などに変えて「単元目標」とする。

学年	話すこと [発表]
2	イ <u>日常的な話題</u> について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、聞き手の反応を確認しながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。 □□□□

例えば、Blue Sky2 の Unit4 であれば、My Future Dream を題材にしているため、下線部を「将来の夢」などに変更する。

- 3 育てたい資質・能力に応じて、具体的な活動場面を想定しながら文言を変更する。

必要に応じて言葉をつないだり、削除したり、「自分で調べた情報を基に」などの学習プロセスが分かる文言を入れたりすることなども考えられる。

＜文言を変更した単元目標例＞

学年	話すこと [発表]
2	イ <u>将来の夢</u> について、自分の考えや気持ちを整理し、理由を付けてまとまりのある内容を話すことができる。 □□□□

- 4 「単元目標」を観点別にまとめると評価規準（単元目標を実現できたと判断する児童生徒の具体的な姿を記述したもの）になる。

評価規準の習得状況の程度を示したものが評価基準となる。その際、数値や記号、条件等で採点の基準を設定する。評価基準は、ルーブリックと呼ばれる。

＜条件設定の考え方・例＞

- ・自分の考えや気持ちを整理→「将来の夢について興味・関心をもって取り組んでいることについて述べている」
- ・理由を付けて→「将来の夢についてその理由を述べている」
- ・まとまりのある内容→「opening-body-closing などの文章構成で述べている」

- 5 単元目標及び対応する CAN-DO リストを単元のスタートで児童生徒と共有する。

- 6 単元目標及び対応する CAN-DO リストの到達度を単元末に児童生徒と確認する。

到達できたと判断したら☑を書かせる。

～教科書内容ベース（單元ごと）の CAN-DO リスト例～

年間指導計画			CAN-DO リスト					評価方法
単元名	題材名	言語材料	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	
			【2学年終了時】 はっきりと話されれば、日常的な話題について必要な情報を聞き取ることができる。(イ)	【2学年終了時】 日常的な話題について必要な情報を聞き取ったり、話の大きな内容を読み取ることができる。(イ)	【2学年終了時】 自分の好きなヒーローについて、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)	【2学年終了時】 自分の考えやヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して話すことができる。(イ)	【2学年終了時】 自分の考えやヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して書くことができる。(イ)	
Unit1	What is Hero?	There is/are] ~ 接続詞when 過去進行形	はっきりと話されれば、ヒーローについて、大きな内容を伝えることができる。(イ)	簡単な語句や文で書かれたヒーローについての文章から、話の大きな内容を伝えることができる。(イ)	自分の好きなヒーローについて、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)	自分の考えやヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して話すことができる。(イ)	自分の考えやヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して書くことができる。(イ)	パフォーマンステスト【発表会】または動画録画
Let's Talk1	待ち合わせ	in front of next to behind between A and B	はっきりと話されれば、待ち合わせの対話文から、必要な情報を聞き取ることができる。(ア)	簡単な語句や文で書かれた待ち合わせに関する対話文から、必要な情報を読み取ることができる。(ア)	待ち合わせについて、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)			動画録画(カードを引き、条件に合うように話す。)
Unit2	Traveling Overseas	will + 動原の原形 be going to + 動原の原形 助動詞must	はっきりと話されれば、海外旅行の対話文から、大きな内容を伝えることができる。(イ)	簡単な語句や文で書かれた海外旅行に関する対話文から、話の大きな内容を伝えることができる。(イ)	海外旅行について、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して伝えたり、相手からの質問に応答したりすることができる。(イ)	海外旅行について、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して話すことができる。(イ)	海外旅行について、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して書くことができる。(イ)	パフォーマンステスト【発表会】または動画録画
Let's Talk2	旅行の準備	have to don't have to	はっきりと話されれば、旅行の準備の対話文から、必要な情報を聞き取ることができる。(ア)	簡単な語句や文で書かれた旅行に関する対話文から、必要な情報を読み取ることができる。(ア)	旅行に必要な物について、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)			動画録画(カードを引き、条件に合うように話す。)

※黄色の枠内は、教科書内容から判断して、育成する資質・能力に適した領域。

## 4年 外国語活動【聞くこと】

「聞くこと」の言語活動は、全ての言語活動の始まりであり、土台です。そのため、デジタル教材の使用はもちろんのこと、指導者自身が積極的に英語を使い、児童が豊富に英語を聞くことができるようにすることが大切です。

活動においては、目的設定を大切に、児童が楽しみながら、必然性をもって聞くことができるようにしましょう。

そして、単なる知識として言葉を与えるのではなく、児童の身近な生活やコミュニケーション場面と関連付けて語句や表現と出合わせましょう。そうした出会いが、積極的な言葉の活用や主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながります。

### 1 AOMORI CAN-DO リスト（第4学年 ア）

ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句（好きな色や食べ物、着ている服、持ち物等）を聞き取ろうとする。

### 2 単元目標

友達を遊びに誘うために、天候や遊びについての表現を聞き取ることができる。

### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	世界と日本の天候や遊びの表現等の多様さに気付くとともに、天候の言い方を聞き取ることに慣れ親しんでいる。	友達を遊びに誘うために、天候や遊びについての表現を聞いて意味が分かっている。	友達を遊びに誘うために、天候や遊びについての表現を聞き取ろうとしている。

### 4 パフォーマンス課題【聞くこと】

海外に滞在している人からのレポートから、6つの国名とそれぞれの天気についての情報を聞き取る。

### 5 目標を達成している児童の姿

“I'm in Japan. It's sunny here. / I'm in Egypt. It's sunny. / I'm in Greenland. It's snowy. / I'm in Canada. It's cloudy today. / I'm in Brazil. It's rainy. / I'm in Hawaii. It's sunny. It's so hot.” というレポートを聞いて、国名及び天気を聞き取り、選択肢から該当する国名を選んだり、□内に天気の絵を描いたりしている。

## 6 指導過程例

4年 Unit2 Let's play cards. 好きな遊びを伝えよう 3/4			
目標 世界の天気や遊びについて聞き取ることができる。			
	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
導 入	○天気について指導者の質問に答える。	・児童の答えやつぶやきに応じて <b>It's sunny / rainy / cloudy / snowy.</b> と紹介する。さらに、 <b>Do you like sunny / rainy / cloudy / snowy days?</b> と尋ね、児童と天気を話題にやり取りをすることで、天気の実現に慣れ親しませる。	教師用カード (天気) デジタル教材 ワークシート
	○チャンツ、歌、スモールトークを通して、天気の言い方にさらに慣れ親しむ。 【Let's Chant】 How's the weather? 【Let's Sing】 【small talk】	・児童と一緒にチャンツを言ったり、歌ったりする。  ・ALT や HRT が行う「天気や遊び」についてのやり取りを聞き、分かったことを発表する。	
世界の天気を聞き取ろう。			
展 開	【Let's Watch and Think 2】 p. 9 ○天気と世界の国々に関わる映像を見る。	・視聴させる前に、世界の国名を挙げさせ、その国の天気を予想させる。	デジタル教材
	【Let's Listen 3】 p. 9 ○国名と天気を聞き取り、□に天気の色を描く。 1: I'm in Japan. It's sunny here. 2: I'm in Egypt. It's sunny. 3: I'm in Greenland. It's snowy. 4: Hi, I'm in Canada. It's cloudy today. 5: I'm in Brazil. It's rainy. 6: I'm in Hawaii. It's sunny. It's so hot!	・場面設定の理解を深めるため、1度音声を聞かせ聞き取れた国名を発表させる。児童の様子をよく観察し、音声を途中で止めたり、繰り返し聞かせたりして、□に天気の色を描かせる。(p.9 Let's Listen 3の天気の色参照) ・なお、ここでは、国名について深く扱わないこととする。 ・他にどのような天気があるかや、そのときにできる遊び方を問いかけるなどして、次の活動につなげる。 ◎世界の天気を聞き取っている。 (指導に生かす評価) <行動観察・記入の点検>	児童用テキスト
	○天気に応じた好きな遊びを伝える。 ・ペアになり、天気に応じて好きな遊びを提案したり答えたりして伝え合う。	・ペアで好きな遊びを紹介し合い、sunny、rainy、cloudy等の天気の日に適したと思う遊びを互いに提案するよう伝える。隣、前後、斜めで繰り返し行わせる。	デジタル教材 教師用カード (遊び、天気)

	A : How's the weather? B : It's rainy. A : Oh, well, let's play cards, then? B : OK.		
終末	○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・英語を使おうとする態度でよかつたところについて称賛する。	振り返りカード

## 7 事後指導

◎本時の活動において目標への到達状況が十分でない児童がいる場合は、次時に向けて個別に指導、支援する場面を設けたり、次時での挨拶や small talk において、意図的に指名したりする。

□効果的な「聞く」活動にするためのポイント

- 1 児童に「何だろう?」「知りたい!」という目的意識をもたせて「聞く必然性」を高めましょう。
- 2 指導者やALTが自分のことを語るなど、意味のある内容を繰り返し聞かせ、ジェスチャー等の非言語の要素を手がかりにしながら、「類推」できた（なんとなく分かった）という喜びや達成感を児童が得られるよう配慮しましょう。
- 3 自然な会話の中から児童にとって身近な場面を設定し、英文の内容を通して新しい語句や表現と出合わせましょう。

### 【指導上の留意点】

- Let's Listen 等の映像資料を扱う際には、「聞き取りテスト」とならないこと、逐語的に日本語に訳さないことなどに留意し、Small Talk を通して意味のあるやり取りを行い、児童が新しい表現と出合う場面を工夫しましょう。
- 映像資料については、1回目は全体をまとめて、2回目は区切って聞かせるなど、聞かせ方を工夫しましょう。

## 5年 外国語科【聞くこと】

高学年においても、自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄を取り扱い、ゆっくりはっきりと話される英語を聞くことができるようにすることが大切です。

児童は、中学年の外国語活動において、「聞くこと」の活動に取り組んでおり、簡単な語句や基本的な表現を聞くことについて慣れ親しんでいます。五つの領域の中で土台となる領域が「聞くこと」であることを踏まえ、どの児童も自信をもってこの活動に取り組むことができるよう、聞かせる事柄や聞かせる英語の速さに留意しましょう。

### 1 AOMORI CAN-DO リスト（第5学年 イ）

ゆっくりはっきりと話されれば、視覚的な情報を手掛かりにするなどして、3～5文程度の日常生活に関する身近で簡単な事柄（好きなことやできること、誕生日、時刻や値段など）について、具体的な情報（季節や場所、数字など）を聞き取ることができる。

### 2 単元目標

身近な人物を紹介するために、その人物のできること等の具体的な情報を聞き取ることができる。

### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>&lt;知識&gt; 家族、職業、動作の言い方や can/can' t, he/she の表現について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; できることやできないこと等の情報を聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>身近な人物を紹介するために、その人物のできること、できないことについて具体的な情報を聞き取っている。</p>	<p>身近な人物を紹介するために、その人物のできること、できないことについて具体的な情報を聞き取ろうとしている。</p>

### 4 パフォーマンス課題【聞くこと】

身近な人物のできることやできないことを聞き取る。

### 5 目標を達成している児童の姿

指導者のスピーチ “My friend, John is from Australia. He can swim fast and he can play kendama. He can't cook. He can't play the piano.” を聞いて、できること等の情報を選択肢から選んだり、日本語で書き取ったりしている。

## 6 指導過程例

5年 身近な人物の紹介 5/8

目標 いろんな先生方のできることやできないことを聞き取ることができる。

	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
導 入	○【Small Talk】 有名人の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有名人について話す。</li> <li>※本単元において児童に期待する姿のモデルを示す。</li> </ul>	紹介する有名人の写真
	<p>【例】 Today, I have a picture of someone. He is an athlete. Do you know the word "athlete"? He is a sport player. Who is he? I give you 3 hints. Hint No.1. He can run fast. Hint No.2. He can hit a lot. Do you know him? Any ideas? Hint No.3. He lives in America. Who is he? The answer is . . . ●●. I like him very much. He is very cool. . . ○○san, good job! (ヒントの途中ですでに当てていた児童を褒める。)</p> <p>誰がどんなことができるか、聞き取ろう。</p>		
展 開	<p>【Let' s Watch and Think2】 p. 38</p> <p>○ある2人の会話を聞いていた登場人物が、その情報をまとめ he/she を使って2人を紹介する映像を視聴し、分かったことを誌面に記入する。</p> <p>○指導者とやり取りをして答えを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を視聴する前に、登場人物の話す内容を予想させる。実態に応じて、繰り返し視聴させる。</li> <li>・登場人物の話聞いて分かったことを誌面に書くように指示する。</li> <li>・児童が書いたことについて、やり取りしながら確認する。</li> </ul>	デジタル教材
	<p>○ Who is he? Who is she?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ he/she を使って紹介された学校職員について、それが誰かを予想して答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数名の学校職員について、できること、できないことなどを he/she を使って児童に聞かせる。児童にどの人物のことかを考えさせ、答えさせる。</li> <li>◎視覚的な情報も参考にして、相手が話している内容を聞き取っている。(指導に生かす評価) 〈行動観察・ワークシート点検〉</li> <li>・答え合わせの際には、再度 he/she を使って、できること、できないことを話す。</li> </ul>	学校職員の写真 ワークシート

	<p>【Let's Chant】</p> <p>○She can run fast. He can jump high. のチャンツを言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子を見ながら、スピードやオプションを選ぶ。</li> <li>・児童のモデルになるようにチャンツを言う。</li> <li>・映像とともにチャンツを流しながら、児童が内容を推測したり理解したりできるようにする。</li> </ul>	デジタル教材
終末	○本時の活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいを全体で確認しながら振り返りカードに記入させる。</li> <li>・本時のねらいに照らして児童を称賛する。</li> </ul>	振り返りカード

## 7 事後指導

◎本時の活動において目標への到達状況が十分でない児童がいる場合は、次時に向けて個別に指導する場面を設ける。また、次時において同様の活動を授業の復習として設定し、異なる内容を聞かせた上で、助言や支援を行う等する。

□効果的な「聞く」活動にするために・・・

表情豊かに伝えたり、ジェスチャーを活用したりすることにより、児童が英語を聞いて理解する手助けとなります。

ゆっくりはっきり話すとともに、児童の状況を的確に捉えて繰り返し聞かせたりすることも大切です。

また、児童と聞いた内容を確認するときには、単なる答え合わせとするのではなく、やり取りを通して内容を確認し、少しでも聞き取れたことを称賛し、自信をもたせるようにしましょう。

## 5年 外国語科【読むこと】

「読むこと」の言語活動で読ませる英語は、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現とすることに十分留意しましょう。

児童が主体的に読もうとする「学びに向かう力、人間性等」を育成するためにも、自分自身や仲間などの身近で簡単な事柄について、目的をもって推測しながら読む言語活動を設定するとともに、そのような活動に過度の負担を感じずに取り組むことができるよう、単元を通じて、毎時間、スモールステップを踏んだ指導を行いましょ

### 1 AOMORI CAN-DOリスト（第5学年 ア）

活字体で書かれた文字の形の違いを識別し、大文字及び小文字を見て、その名称を発音することができる。

### 2 単元目標

大文字や小文字の名称を読んだり認識を深めたりするために、目的をもってその読み方を発音することができる。

### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p>&lt;知識&gt; 活字体で書かれた大文字や小文字の違いを識別し、その読み方を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 活字体で書かれた大文字や小文字の違いを識別し、その読み方の技能を身に付けている。</p>	<p>大文字や小文字の名称を読んだり認識を深めたりするために、目的をもってその文字の読み方を発音している。</p>	<p>大文字や小文字の名称を読んだり認識を深めたりするために、目的をもってその文字の読み方を発音しようとしている。</p>

### 4 パフォーマンス課題【読むこと】

「七並べ」の要領で、a（後）～（前）n（後）～（前）zのカードを置く。置く際には小文字の名称を発音し、全部並べ終わったら、全員でa～z、z～aの順に文字を読む。

### 5 目標を達成している児童の姿

「七並べ」の要領でカードを置く際に、置く小文字の名称を正しく発音している。また、a～zまで順序良く並べており、a～z、z～aの順に文字を読んでいる。

## 6 指導過程例

5年 学校生活・教科・職業 6/7

目標 アルファベット小文字による七並べを通して、活字体の小文字を識別し、読むことができる。

	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
導入	○挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
	<b>【Let's Chant】</b> ①What do you want to study? ②What do you want to be? ○チャンツを聞き、言う。	・児童の実態により、スピードを選ぶとよい。 児童と一緒に言う。 ・チャンツを聞き、言う。	デジタル教材  デジタル教材
	<b>【Activity 2】</b> p. 24 ・前時に作成したオリジナル時間割を紹介する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">アルファベットの小文字で七並べをしよう。</div>	・理由も伝えるように促す。	ワークシート
展開	○アルファベット文字当てパズル(小文字) ○anzゲーム <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             ・グループで児童用カード(小文字) 1セットを用意し、最初にa,n,zの3文字のみ間隔をあけて机の上に置く。3文字以外の小文字カードはシャッフルし、裏返して等分に配る。じゃんけんをして順番を決める。              ・「七並べ」の要領で、a(後)～(前) n(後)～(前) zのカードを置くことができる。隣り合うカードのみしか置くことはできない。置く際には小文字を読む。全て並べ終えたら、全員でa~z、z~aの順に文字を読む。           </div>	・児童が十分にアルファベットに慣れるまで数回繰り返す。  ◎活字体の小文字を識別し、正しく読んでいる。(記録に残す評価) <行動観察、振り返り>	デジタル教材

終末	○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 ○挨拶をする。	・数名に発表させ、児童のよかったところを認める。 ・振り返りカードに記入させる。 ・挨拶をする。	振り返りカード
----	--------------------------------------	--	---------

## 7 事後指導

◎本時の活動において目標への到達状況が十分でない児童がいる場合は、次時に向けて個別に指導する場面を設けたり、他教科等との関連を図るなどの工夫をしたりし、文字への興味・関心を高め、指導を続けながら学習改善の状況を継続的に観察する。

### 「読むこと」の活動のポイント

児童が活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかや、その文字が大文字であるか小文字であるかを識別することができるよう、丁寧で確実な指導が必要です。

### 学習到達目標(第5学年 イ)について

音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現のおおまかな意味が分かる。  
この「読むこと」の指導においては、以下の3点が重要です。

- 1 単元を通じて音声で十分慣れ親しんだ後、単元終末において取り組むこと
- 2 毎時間少しずつ取り組むこと
- 3 目的意識をもたせ、内容を推測させながら読ませること

#### 【指導上の留意点】

◆以下の活動を、単元を通して複数の授業に繰り返し設定することが大切です。

- ・歌やチャンツなどで音声で十分慣れ親しませる活動
- ・身近な場所にある看板や持ち物に記されている活字体で書かれた文字に意識を向けさせたりする活動

### 3年 外国語活動【話すこと[やり取り]】

第5・6学年に設定されている Small Talk には、児童の実態に応じて第3・4学年から取り組みましょう。この活動を通して、児童の本当の考えや気持ちを話す機会を充実させましょう。Small Talk は既習語句や表現を繰り返し活用したり、対話を続けたりする学習活動を通して互いの心を通わすことの大切さを児童に意識させたり、その楽しさを実感させたりすることができる言語活動です。

#### 1 AOMORI CAN-DO リスト（第3学年 イ）

相手に伝わるように工夫した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。

#### 2 単元目標

授業等で ALT と物をやり取りするために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットカードなどの身の回りの物について、ほしい物を伝えたり、物をやり取りする場面の基本的な表現で伝え合ったりする。

※本単元における「聞くこと」については、目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。

#### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 〔やり取り〕	身の回りには活字体の文字で表されていることに気付き、活字体の大文字とその読み方、アルファベットカードなどの物をやり取りするときの表現に慣れ親しんでいる。	授業等で ALT と物をやり取りするために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットカードなど、身の回りの物について、欲しいものを伝えたり、物をやり取りする場面の基本的な表現を使って伝え合ったりしている。	授業等で ALT と物をやり取りするために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットカードなど、身の回りの物について、欲しいものを伝えたり、物をやり取りする場面の基本的な表現を使って伝え合ったりしようとしている。

#### 4 パフォーマンス課題【話すこと〔やり取り〕】

ALT と授業の中で簡単な表現を用いて物のやり取りをする。

#### 5 目標を達成している児童の姿

A : The "A" card, please. ※ \_\_\_\_\_ 部はアルファベットカードや身の回りの物 など

B : Here you are.

A : Thank you.

B : You're welcome.

## 6 指導過程例

3年 Unit 6 ALPHABET アルファベットとなかよし 1/5

目標 アルファベットの言い方や、物をやり取りしたりお礼を伝えたりする表現に慣れ親しむ。

	児童の活動	指導者の活動◎評価〈方法〉	準備物
導 入	○挨拶をする。 【Small Talk】	・単元目標を児童と共有する。 ・Let's Try の P22-23 を用いて、簡単なやり取りをして見せる。	
	【Let's Watch and Think】 P23 ・デジタル教材を視聴し、町の中にどんな店があるかを発表する。	・児童の洋服や持ち物のアルファベットを探す。 T: You have "A" in your shirt. Let's find alphabet in the town.	デジタル教材 テレビ
	アルファベットカードをやり取りしよう。		
展	○友だちと協力しながら担当のアルファベットを知る。 ○3グループ程度に分かれてアルファベットの読み方を知り、言えるように練習する。 A: This is ～. That's right.	・後で違うグループの人に自分が知ったアルファベットを教えることを伝える。 ・各グループに読み方を知らせる。	アルファベットカード
開	○グループ活動で知ったアルファベットを教え合い、言えたらアルファベットカードをもらう。 ・各グループから1名ずつ集まり、未知のアルファベットを学び合う。 ・自分が覚えたアルファベットカードを数枚ずつ持ち寄り紹介し合う。 A: This is "N". B: "N". The "N" card, please. A: Here you are. B: Thank you. A: You're welcome. B: This is "V". A: "V". The "V" card, please. B: Here you are. A: Thank you. B: You're welcome.	・VBNMZについて正しい発音を教える。 ・互いに未知であるアルファベットを伝え合うことによって、相手が知っているアルファベットの読み方に興味をもつようにする。 ・児童を観察して、難しさを感じているところを把握する。  ◎アルファベットに興味をもち、進んでやり取りをしようとしている。(指導に生かす評価)〈行動観察・振り返りカード分析〉	アルファベットのポスター

	○手持ちのカードでトランプのように引いて発音してみるなどの活動に広げる。		
終 末	○難しいアルファベットについて気付いたことを発表する。 ・NとMが分かりにくい。 ・Cの発音の仕方が難しい。 ・VとBの違いが分からない。 ・Wの読み方が難しい。 ・Zを「ズィー」ということを初めて知った。	・児童が達成感を得られ次の学習への意欲につながるように、観点を設定して振り返りをさせる。	
	○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の【やり取り】の中でよかった点を大いに称賛する。 ・挨拶をする。	カード

## 7 事後指導

◎本時の活動において目標への到達状況が十分でない児童がいる場合は、次時に向けて個別に指導する場面を設けたり、身の回りからアルファベットを探す、他教科等との関連を図るなどの工夫をしたりし、文字への興味・関心を高め、指導を続けながら学習改善の状況を継続的に観察する。

### □Small Talk の進め方例

(1) 指導者と児童で簡単なやり取りをしましょう。

#### ■話題の提示、言い出し方の提供

※チーム・ティーチングでは、指導者同士が Small Talk を行うことも有効です。

(2) 児童と児童でやり取り➡まずはやらせてみましょう。

(3) 指導

①みんなでどのように表現すればよいか考え、共有しましょう。

②言えなかったことを、既習表現に結び付けられるようヒントを出しましょう。

「何か言えなくて困ったことはありませんでしたか？」

(4) 相手を替えて児童と児童でやり取り➡既習事項を活用させましょう。

## 4年 外国語活動【話すこと[やり取り]】

Let's Chant や歌及びジングル等で、英語の音やリズム、イントネーションのインプットを十分行い、次の活動に円滑につながるためにもSmall Talkを活用しましょう。  
指導者が自分のことを話して、児童の興味・関心を高めたり、児童を巻き込み、児童に尋ねて答えさせたりして、既習の語句や表現に慣れ親しませましょう。

### 【Small Talkのタイプ1：単元ベース】

□ 本時や単元の最終的な姿（Activity）を見せて、本時のねらいを明確にするタイプ

### 【Small Talkのタイプ2：定着ベース】

□ 既習の表現を使って、指導者と児童、児童同士でやり取りして定着を図るタイプ

## 1 AOMORI CAN-DOリスト（第4学年 イ）

相手に配慮した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合おうとする。

## 2 単元目標

お互いのことをよく知るために、好きな色クイズを通して、アルファベットの小文字をたずねたり、答えたりする。

## 3 単元の評価規準

話すこと 「やり取り」	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身の回りにはアルファベットの大文字小文字が多く使われていることに気付き、アルファベットの小文字に慣れ親しんでいる。	お互いのことをよく知るために、好きな色クイズを通して、相手に配慮しながら、アルファベット文字について伝え合っている。	主体的に学習に取り組む態度 お互いのことをよく知るために、好きな色クイズを通して、相手に配慮しながら、アルファベット文字について伝え合おうとしている。

## 4 パフォーマンス課題【話すこと [やり取り]】

好きな色クイズを通して、相手に配慮しながら、アルファベットの小文字について伝え合っている。

## 5 目標を達成している児童の姿

A : What's my favorite color? Please guess.

B : OK.Do you have a "b"?

A : No,I don't. I don't have a "b".

B : Do you have a "p"?

A : Yes,I do. I have a "p".

B : Do you have a "i"?

A : Yes,I do. I have a "i".

B : I got it! "pink"

A : That's right. I like pink.

## 6 指導過程例

4年 Unit6 Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう 4/4
目標 アルファベットの小文字についてたずねたり、答えたりすることができる。

	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
導 入	○挨拶をする。  【Let's Chant】 Alphabet Chant	・挨拶をする。  ・児童と一緒に歌う。	デジタル教材 アルファベ ット小文字カード (指導者用)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           相手が選んだ色を当てよう。         </div>		
展 開	<b>【Ping-pongストーミング】</b> ○代表2名が前に出て指導者が操 作するボールのラリーをする。 打つタイミングでアルファベッ トを"a"から順に言う。	・ Small Talkと実演を通してやり 方を理解させる。 指導者が操作するボール（指 し棒に取り付けたもの）がラ ケットに到達するまでに次のア ルファベットを言えなくなったら 負けであることなど。	卓球ラケット ×2 ボール（指し棒 に取り付けたも の
	<b>【Writing on Back】</b> ○班ごとに1列になる （計6列できる） ○一番後ろの児童が前の児童の背 中に指導者から指示されたア ルファベットを指で書く。伝言 ゲームの要領でそれを次、また 次へと続けていき、先頭の児童が 最後に黒板へ書く。	・ スタートする児童へのアルフ ァベットの指示をする。 ・ 指示するアルファベットは、 “h”と“n”，“q”と“d”， “a”と“u”など、違いをはっ きり書かないと誤認されやす いものの中から出題する。	アルファベット 小文字カード(指 導者用)



終	○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・児童の[やり取り]の中でよかった点を大いに称賛する。 ・挨拶をする。	振り返りカード
末	○挨拶をする。		

## 7 事後指導

- ◎ 本時の活動において目標への到達状況が十分でない児童がいる場合は、次時に向けて個別に指導する場面を設けたり、他教科等との関連を図るなどの工夫をしたりし、文字への興味・関心を高め、指導を続けながら学習改善の状況を継続的に観察する。

### 「児童とやり取りしながら学ばせる」指導を大切にしましょう

指導者の中には、自身の英語力や専門性に不安を抱いている方がいると思います。まずは、指導者も英語に慣れ親しみ、意欲的に授業に臨むことが大切です。

また、外国語活動・外国語科の授業で大切なことの1つは、児童とのやり取りの中で語句や表現等を理解させることです。他教科等の授業で実践されているように、児童とやり取りしながら、つぶやきを拾ったり、意見を引き出したりする指導を外国語活動・外国語科の授業でも行いましょう。

## 6年 外国語科【話すこと[やり取り]】

児童が間違えることを恐れずに英語を使おうとするためには、まずは指導者自らが「英語の学習では、間違えてもいいから英語を使おうとすることが大切だ」という雰囲気をつくるのが大切です。児童の発話の「内容」を重視しましょう。

指導者は学習者のモデルとなり、積極的に英語を話そうとしたり、ジェスチャー等を駆使しながら、自分の言葉でどうにかして伝えようとしたりする姿を見せることが大切です。

### 1 AOMORI CAN-DO リスト（第6学年 ウ）

自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄（好きなこと・もの、持ち物など）について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、児童同士で会話を続けることができる。

### 2 単元目標

お互いのことをもっとよく知るために、好きなものや宝物などについて紹介し合うことができる。

### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「やり取り」	<p>&lt;知識&gt; 好きなものや宝物の言い方、I like～.I'm good at～.My treasure is～.It's from～.What～do you like?などへの答え方について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 好きなものや宝物などについて、I like～.I'm good at～.My treasure is～.It's from～. What～do you like? When is your birthday?等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の好きなものや宝物について、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の好きなものや宝物について、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>

#### 4 パフォーマンス課題【話すこと（やり取り）】

児童同士で好きなものや宝物などについて紹介し合い、さらにお互いのことを知るために質問したり答えたりする。

#### 5 目標を達成している児童の姿

A: I'm Hanako. I'm from Aomori. I like basketball. I'm good at playing basketball.  
My treasure is this cap. It's from my brother. Thank you.

(例)

T: Any questions?

B: What animal do you like?

A: I like dogs.

B: When is your birthday?

A: My birthday is April 21th.

#### 6 指導過程例

6年	自己紹介	5/7
目標	今までに学習した表現を使いながら、友達に自己紹介をしたり、聞いたりすることができる。	

	児童の活動	指導者の活動◎評価〈方法〉	準備物
導入	○教科書の文を指で追いながら発表を聞く。	・動画で発表を聞かせる。スピード調節ができる場合は、最初はふつうの速さ、ゆっくり、速めの順で聞かせ、児童の指の動きを確認し、何度か聞かせる。	デジタル教材 テレビ
	自分の宝物について紹介しよう。		
展開	○自分の宝物紹介カードを作る。まずは日本語で書き、宝物の英語での言い方を調べて書き写す。 ○書き写したものをもとに言い方をALT等に聞く。	・宝物は何か、誰からもらったものかなど、2文程度の簡単な文を考えさせる。 ・自分が表現したいことについての言い方等を調べさせる。	教科書 (自己紹介シート)
閉	○自分の宝物紹介カードをもとにして発話してみる。 I'm Hanako. (I'm from Aomori.)	・最初は自分だけで小さな声で言ってみて、言い方を確認させる。不安なところがないかどうかを確かめる。	

	<p>(I like baseball. ) ( I'm good at playing the piano. ) My treasure is this cap. It's from my brother. Thank you.</p> <p>○ペアのスピーチを振り返って、良かったところ、相手についてもっと知りたいこと、自分でもっと伝えたいことなどを共有し、既習の表現方法を確認する。</p> <p>(例)</p> <p>B: What animal do you like? A: I like dogs. B: When is your birthday? A: My birthday is April 21th.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで自己紹介に挑戦させる。</li> <li>・( )内の部分は児童の実態に合わせて取り入れる。</li> <li>・聞く側は、自分でもっと知ってほしいことや相手のことでもっと知りたいことはないか考えながら相手のスピーチを聞くように促す。</li> </ul> <p>・ペアで話してみて、良かったところやもう少し工夫したいところに加え、スピーチを充実させるための内容について話し合わせる。</p> <p>◎自分のことを相手に知ってもらうために意欲的に宝物カードを作り、自分のことを表現しようとしているか。(指導に生かす評価) 〈行動観察・振り返りカード分析〉</p>	
終末	○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・児童の【やり取り】の中でよかった点を称賛する。	振り返りカード

## 7 事後指導

◎本時の活動において目標への到達状況が十分でない児童がいる場合は、次時に向けて個別に指導する場面を設けたり、自分の大切にしているものに目を向けさせる、指導者が日常的に本時の英語表現を使ってみるなどの工夫をしたりし、自己紹介への興味・関心を高め、指導を続けながら学習改善の状況を継続的に観察する。

### □言語活動を通して指導しましょう

外国語の学習には繰り返しの反復練習も必要ですが、指導者から与えられた表現をひたすら復唱するなどの機械的な反復練習では、児童の学習意欲を減退させてしまうこともあります。英語は使っているものの、児童が自分の考えや気持ちを伝え合っていない活動は言語活動とは言えません。練習だけで授業が終わらないよう留意し、【活動→中間評価→指導→活動】の流れで言語活動を行いましょ。

言語活動を繰り返し行うことで、児童だけでなく、指導者の英語力も向上させることができます。

### 3年 外国語活動【話すこと【発表】】

「話すこと【発表】」の段階は、それまでに慣れ親しんできた語句や表現を活用して課題を解決する体験の場となります。児童一人一人が相手意識・目的意識をもち、「話したい」内容を選択し、コミュニケーションすることや自分のことについて話すことの楽しさを実感させることが大切です。

事前にしっかり表現に慣れ親しませておくとともに、「正確さ」よりも「内容」を大切にし、児童の「話そう」とする意欲や態度を認め称賛し、どの児童にも「話せた」という喜びや達成感を味わわせましょう。

#### 1 AOMORI CAN-DO リスト（第3学年 イ）

自分や友達の名前の頭文字について、人前でカードを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝える。

#### 2 単元目標

自分の名前を友達にわかりやすく紹介するために、相手に伝わるように工夫しながら姓名の頭文字を伝える。

#### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 〔発表〕	アルファベットの活字体の大文字を識別し、活字体とその読み方に慣れ親しんでいる。	自分のことを伝えるために、相手に分かりやすいように工夫しながら、基本的な表現を用いて自分の姓名の頭文字を話している。	自分のことを伝えるために、相手に分かりやすいように工夫しながら、基本的な表現を用いて自分の姓名の頭文字を話そうとしている。

#### 4 パフォーマンス課題【話すこと【発表】】

相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を紹介する。

#### 5 目標を達成している児童の姿

(例) Hello (, everyone) .  
I'm Yamada Ken.  
"Y" and "K".  
Thank you.

## 6 指導過程例

3年 Unit6 ALPHABET アルファベットとなかよし 5/5

目標 相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えることができる。

	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
導入	○挨拶 ○ABCsong	・笑顔で雰囲気をつくり、挨拶をする。 ・黒板にアルファベットの文字カードを貼り、児童と一緒に歌う。	指導者用カード
	○線つなぎゲーム ・指導者が言う大文字の読み方の順にその文字をつないでいく。	・やり方について実演し、やり取りを通して理解させる。	
	自分のイニシャルを発表しよう。		
展開	○自分の姓名の頭文字を集め、イニシャルカードを作成する。  ・文字カードを渡す役とももらう役に分かれ、英語の名札を参考に、自分の姓と名前の頭文字に必要なカードをもらい、テキストに貼る。	・やり方について実演し、やり取りを通して理解させる。	児童用カード(大文字)のコピー
	○自分の姓名の頭文字を発表する。  【発表例】 Hello(, everyone). I'm Yamada Ken. "Y" and "K". Thank you.	・Small Talk でALT (不在の場合は JTE) がモデルを示すなど、児童に活動の見通しをもたせながら意欲付けを図る。 ・デモンストレーションで使用する表現を確認し、隣同士で紹介し合う活動に慣れさせる。 ・グループや学級全体で、もしくは自由に歩いて紹介し合うなど学級や児童の実態に合わせて紹介の仕方を工夫する。 ◎相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を紹介している。(記録に残す評価) <活動観察・発表・振り返りカード点検>	
終末	○振り返りカードに、会話の楽しさや新しい気付き、友達の良いところ等を書き、発表する。 ○Goodbye song ○終わりの挨拶	・会話の楽しさや新しい気付き等を発表させ、称賛し合わせる。	振り返りカード

## 7 事後指導

- ◎本時の活動において目標への到達状況が十分でない児童がいる場合は、個別に指導する場面を設けたり、身の回りの掲示物や標識、看板などからアルファベットを探す、文字の識別や読み方の練習を毎時間繰り返すなどしたりして文字への関心を高める工夫をしながら指導を続け、学習改善の状況を継続的に観察する。

### □児童が発話するまでの流れ

#### ①言葉をインプットする段階

英語を指導する際に大切なことは、多くの質の高いインプットを与えることです。特に単元の1、2時間目は無理に発話を促さず、じっくりとインプットできる、必然性の高い聞く活動を行うようにしましょう。

#### ②模倣する段階

十分にインプットできた後は手本を模倣する段階に入ります。指導者の後に続いて発話させていく活動に取り組みましょう。しかし、この活動に終始することがないように留意することが大切です。

#### ③自分でやってみる段階

自信をもって模倣できるようになってきたら、指導者と一緒に発話したり、児童だけで発話したりする活動に取り組みましょう。この場面で指導者が児童の発話状況を見取り、励ましたり、不十分なところを補足したりすることが大切です。

## 5年 外国語科【話すこと [発表]】

児童が身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを、聞き手に分かりやすく整理し、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにするためには、単元計画に基づいた準備が大切です。

そこで、児童にとって「身近で簡単なこと」について、「自分が伝えたい内容」をもたせ、それを伝えるために必要な表現を練習する授業を計画的に進めましょう。

相手意識や目的意識を明確にした活動を設定すれば、児童の「英語を話して伝えたい」という意欲を高めることにつながります。

### 1 AOMORI CAN-DO リスト (第5学年 ア)

日常生活に関する身近で簡単な事柄(時刻や日時、場所など)について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、メモやキーワードをもとに、相手に伝わるように話すことができる。

### 2 単元目標

自分のことをもっとよく知ってもらうために、時刻を入れて一日の生活について発表することができる。

### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 〔発表〕	<知識> 日常生活の動作や時刻、頻度について伝える言い方 I go / do / clean~. I always / usually / sometimes / never ~. を理解している。 <技能> 日常生活の動作や時刻、頻度について伝える言い方を身に付けている。	相手に自分のことをよく知ってもらうために、一日の過ごし方について、動作や時刻、頻度について伝えている。	相手に自分のことをよく知ってもらうために、一日の過ごし方について、動作や時刻、頻度について伝えようとしている。

### 4 パフォーマンス課題【話すこと [発表]】

相手に自分のことをよく知ってもらうために、日曜日の過ごし方を、時刻を入れて発表する。

## 5 目標を達成している児童の姿

Hello (, everyone).  
 I usually get up at six on Sunday.  
 I sometimes walk my dog at seven.  
 I eat lunch at twelve.  
 I eat dinner at six.  
 I play the piano at seven.  
 I go to bed at ten.  
 Thank you.

## 6 指導過程例

5年	学校生活・教科・職業	4/5
目標	同じ生活パターンの仲間を見つけるために、自分の日曜日の生活について伝えることができる。	

	児童の活動	指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
	○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体に挨拶をする。</li> <li>児童と一緒に、日付や天気、体調、時刻等を確認する。</li> </ul>	
導 入	○日常生活について、動作・時刻・頻度の表現を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>起床、食事、就寝時間等について質問する。</li> </ul>	デジタル教材 ワークシート
	○月曜日の生活について、メモを完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻のみ、ワークシート（スプレッドシート）にメモさせる。</li> </ul>	
	○メモを見ながら発表練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間の前につける前置詞「at」や、頻度を伝える「sometimes」「usually」「always」に留意しながら練習させる。</li> </ul>	
	○メモを見ながら、月曜日の自分の生活についてペアで発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取った時刻や頻度をメモさせ、主語を「You」に変えて確認させる。</li> </ul>	
	○表現や発音で難しかったことや、理解できなかった表現を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>気が付いたことを発表させる。</li> <li>表現や発表について修正したりアドバイスしたりする。</li> </ul>	
	○月曜日の生活について、ペアと自分との共通点や相違点を発表する。		
	日曜日の生活パターンが同じ仲間を見つけよう。		

展 開	<p>○起床、食事、就寝時間以外に、日曜日によくする行動について考え、それぞれの時間をメモする。</p> <p>○メモを見ながら発表練習をする。</p> <p>○メモを見ながら、日曜日の自分の生活についてペアで発表し合う。</p> <p>○メモを見ながら自分の日曜日の生活について、仲間に発表する。発表を聞く児童はメモを取る。 (例) Hello. I usually get up at seven on Sunday. I sometimes walk my dog at ten. I eat lunch at one. I eat dinner at six. I go to bed at ten. Thank you.</p>	<p>・活動のねらいを児童に伝える。</p> <p>・「犬の散歩」や「部屋の掃除」「宿題」等の表現を確認する。</p> <p>・相手の日曜日の生活についての発表を聞いて、時刻や行動をメモする。</p> <p>・ペアで十分練習させる。</p> <p>◎日曜日の生活のパターンが似ている仲間を見つけるために積極的に自分のことを表現しようとしているか。(指導に生かす評価) 〈行動観察・振り返りカード分析〉</p>	<p>教科書</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>
	終 末	<p>○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</p>	<p>・児童の発表の中でよかった点を大いに称賛する。</p> <p>・日曜日の生活パターンが同じだった仲間は何人いたのか、また、一週間の生活パターンが同じ仲間を探すために、どんなことを工夫したいかを記入させる。</p>

## 7 事後指導

◎本時の活動において目標への到達状況が十分でない児童がいる場合は、個別に指導する場面を設けたり、自分の生活について想起させる時間を確保したり、ねらいを明確にし、児童が必然性を持ちながら活動できるようにしたりしながら指導を続け、学習改善の状況を継続的に観察する。

本事例の領域別目標は【話すこと [発表]】です。したがって、全体の前で発表できるとよいのですが、人数の関係や十分な活動量の確保といった点を考えて、全体での活動（歩き回って複数人に発表する）という形態をとることも可能です。

相手を変えて発表する機会を設定することにより、児童が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる活動としてよい事例です。

## 5年 外国語科【書くこと】

「書くこと」の言語活動で書かせる英語は、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現とすることに留意しましょう。また、児童が過度の負担を感じることをしないよう、段階を踏んで指導する必要があります。

「相手意識」と「目的意識」を児童にもたせ、音声で何度もやり取りした語句の中から、「自己選択」と「自己決定」させて「書き写す」活動に取り組ませましょう。

### 1 AOMORI CAN-DO リスト（第5学年 ア）

大文字、小文字を正確に書き写すことができる。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。

### 2 単元目標

身近な人を相手に紹介する英文を作成する際に、相手によく知ってもらうために、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。

### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	<p>&lt;知識&gt; 先生や友達のことを紹介する際に使う語句や This is～. He can ～. She can ～. の表現について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 先生や友達のことを紹介する際に使う語句や This is～. He can ～. She can ～. を用いて、書く技能を身に付けている。</p>	先生や友達のことを相手に紹介する際に、相手によく知ってもらうために、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写している。	先生や友達のことを相手に紹介する際に、相手によく知ってもらうために、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写そうとしている。

### 4 パフォーマンス課題【書くこと】

先生や友達を紹介する英文を作成する際に、相手によく知ってもらうために、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写す。

### 5 目標を達成している児童の姿

(例) This is Mr.Suzuki. He can cook well.  
This is Yumi. She can dance well.

## 6 指導過程例

5年 身近な人の紹介 8/8

目標 自分が決めた人物を紹介する際に、大文字、小文字を正確に書き写すことができる。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。

	児童の活動	指導者の活動◎評価〈方法〉	準備物
導 入	○挨拶をする。 【Let's Chant】 She can sing well. ○チャンツを言う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体に挨拶をする。</li> <li>本時のめあてと流れを児童と共に確認する。</li> <li>デジタル教材で、チャンツを視聴しながら音声に合わせてチャンツを言う。</li> </ul>	デジタル教材
	【Let's listen①】 ○登場人物の話を聞いて、できることに○、できないことに△をつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物についてできることできないことを説明する音声をデジタル教材で聞かせる。</li> </ul>	デジタル教材
	【Let's listen②】 ○登場人物の話を聞いて、人物の名前や He か She を4線に書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の名前やできることを説明する音声をデジタル教材で聞かせる。</li> </ul>	デジタル教材
	○先生や友達にインタビューして、誰が何をすることができるのかのメモをとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Can you ~ well? (cook / dance / draw / play volleyball / play tennis / play the guitar / play the piano / run / sing / swim )</li> <li>Yes, I can. / No, I can't.の表現に慣れ親しませる。</li> </ul>	教科書
	先生や友達の紹介文を書こう。		
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○先生や友達にインタビューしたことをもとに、紹介したい人物を1人決める。</li> <li>○紹介文の書き方を聞く。</li> <li>○決定した人物の名前とできることをワークシートに書く。(名前の最初は大文字にし、This is ~. / He can ~. / She can ~.の英文を書く。)</li> <li>○例文を読んだ後に、自分自身で書いた英文を読む。</li> <li>○例文の空書き・机書き・な</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生や友達にインタビューしたことをもとに紹介したい人物を1人決めさせる。</li> <li>This is ~./ He can ~. / She can ~.の英文の書き方を示す。</li> <li>ワークシートを配付し、決定した人物の名前とできることを This is ~. / He can ~. / She can ~. の英文でワークシートに書くよう指示する。(机間指導して、全員の英文が正しいかを確認する。)</li> <li>1つ例をあげて全員で英文を読む。次に、児童が自分自身で書いた英文を読ませる。</li> <li>例の英文の空書き・机書き・なぞり書き</li> </ul>	ワークシート  絵カード

	ぞり書きの後に、自分が紹介したい人物の英文を絵カードに書き写す。	をさせた後に、自分が紹介したい人物の英文を、空書き・机書き・なぞり書きをさせ、その後に、絵カードに書き写させる。 ◎This is ～./ He can ～. / She can ～.の英文を正しく4線に書き写している。(記録に残す評価) <行動観察・振り返りカード分析>	
終末	○本時の活動を振り返る。 ○挨拶をする。	・カードで振り返らせ、児童を称賛する。 ・挨拶をする。	振り返りカード

## 7 事後指導

◎本時の活動において目標への到達状況が十分でない児童がいる場合は、個別に指導する場面を設けたり、アルファベット等を書かせる活動を繰り返し設定したり、音声で十分慣れ親しんだ英文を書き写す活動を意図的に設定したりするなどの指導を続けながら学習改善の状況を継続的に観察する。

### ■「書くこと」の指導の在り方

「書くこと」においては、中学年でアルファベットの大・小文字に慣れ親しんだことを踏まえ、「書きたい」と児童が思える必然性のある場面を設定し、音声で十分慣れ親しんだ文字や内容について、なぞったり書き写したりさせます。

単元を通じて聞いて、話してから毎時間1文ずつ書き溜めていかせるようにしましょう。

アルファベット等を書かせる活動を繰り返す際においても、音声を伴って指導するとともに、児童に過度な負担をかけない工夫が必要です。

### ■「書くこと」につながるローマ字学習・アルファベットの識別

#### 第3学年におけるローマ字学習・大文字の識別

外国語活動でアルファベットの大文字を取り扱うとともに、ローマ字学習では小文字を多く扱います。

ローマ字は英語ではなく、アルファベットで表記された日本語ですが、児童にとってその区別が難しいことも考えられます。

したがって、国語科のローマ字指導では、「日本語の音が子音と母音の組み合わせで成り立っている」ことを理解させた上(訓令式)で、より英語の音に近いヘボン式も指導しましょう。

子音と母音を切り離す練習をすることで英語特有の発音やつづりはローマ字で表せないことに気付かせることも大切です。

## 参 考 文 献

- ◆文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）
- ◆文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語活動編（平成29年7月）
- ◆文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）
- ◆文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）
- ◆文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）
- ◆文部科学省 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック（平成29年6月）
- ◆文部科学省 Hi, friends! 1
- ◆文部科学省 Hi, friends! 2
- ◆文部科学省 Let's Try! 1
- ◆文部科学省 Let's Try! 2
- ◆文部科学省 We Can! 1
- ◆文部科学省 We Can! 2
- ◆文部科学省 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料  
小学校 外国語・外国語活動（令和2年3月）
- ◆文部科学省 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料  
中学校 外国語（令和2年3月）